

こう りつ ちゅう こう いっ かん こう

公立中高一貫校

こう かく りょく こう ざ

合格力講座

2018 年度

合格へのこの一問!

執筆・早稲田進学会(大島茂) イラスト・青山ゆういち

に きん か たん そ はいしつ せいかい くに じふんたち しやかい

二酸化炭素排出のもとを世界の国、自分達の社会からさぐろう!

ちょう せん

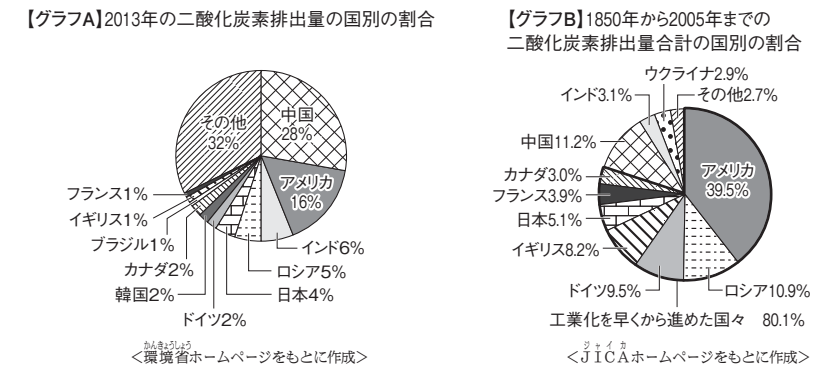
挑戦!

おおいたけんりつおいたほう ちゅう ねん ど

大分県立大分豊府中2017年度

適性検査Ⅰから抜粋(一部改変)

あおいさんは中学生のお兄さんに、電気の使用量のことや二酸化炭素排出量の問題について相談しました。



お兄さん：授業で、模擬国際会議をやったんだ。ドイツ、イギリス、フランス、日本のように工業化を早くから進めた国々や、中国やインドのように工業化が最近進んだ国々の役になって、地球温暖化を防ぐために、二酸化炭素を排出する量を減らすための国同士の話し合いをやってみたんだ。途中で、意見がはげしく対立する場面もあったよ。ドイツやイギリスなどの役の人たちが、【グラフA】からいえることとして、⑥中国やインドの役の人たちに(ア)といったのだよ。

あおい：それで、中国やインドの役の人たちはどうしたの。

お兄さん：中国やインドの役の人たちは、⑥【グラフB】から「(イ)と考えられるのではないでしょうか。」と主張した上で、「現在の自分たちの技術では、二酸化炭素排出量を減らすことは工業化の遅れにもつながりかねない。私達も豊かになれるよう、工業化を早くから進めた国々として、あなたたちにできることを考えて。」といったのだよ。

あおい：工業化を早くから進めた国々はどう答えたの。

お兄さん：自分たちが、これから工業化を進める国に、二酸化炭素を減らすための進んだ技術を提供することなどを提案して、お互いに努力することになったよ。

【問題1】 会話文の下線部⑥の(ア)には【グラフA】からいえることを根拠とした意見が入ります。適当な番号を選びなさい。

④「南極の水がとけて、土地が海にしずむなど、すでに多くの被害が出ています。今すぐに行動することが重要だと思います。」

資料問題編⑥ 二酸化炭素はどこから減らしていくの

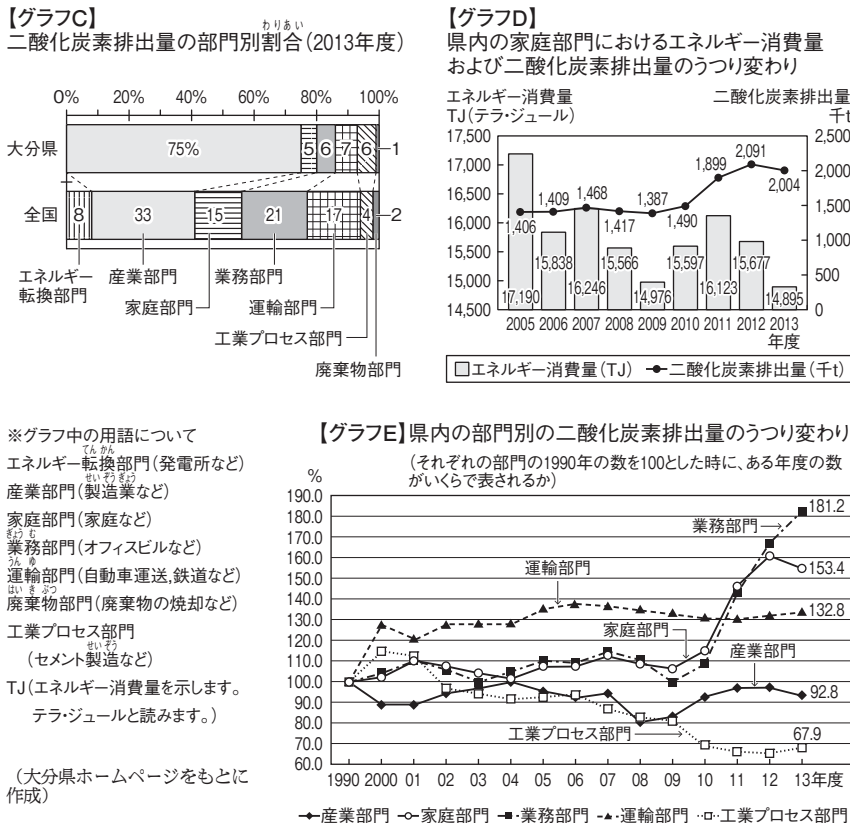
②「現在、たくさんの二酸化炭素を出している国が、その排出量を減らす取り組みをすることが重要だと思います。」

③「私たちは、すでに二酸化炭素排出量を減らしています。国民一人あたりの排出量が多い国が排出量を減らすべきです。」

【問題2】 会話文の下線部⑦について、次の条件にしたがって、(イ)に当てはまる文を書き、この主張を完成させなさい。

【条件】 「工業化を早くから進めた国々」、「工業化が最近進んだ国々」のどちらかの言葉を使ってまとめ、一文目は【「グラフB」から、】に続けて、グラフから読み取れることを数を使って書き、二文目は、会話をもとに、グラフから読み取ったことを地球温暖化の原因と関連づけて書くこと。

ゆうまさんの学級では、環境について調べました。すると、地球温暖化の原因の一つの二酸化炭素の排出量と自分たちの生活との関係について、次の3種類のグラフを見つけることができました。



あおい：グラフ(ア)を見ると、2013年度に大分県内で一番たくさん二酸化炭素を出していたのは(イ)部門で、二番目は運輸部門だと分かるよね。

ゆうま：そうだね。でも、見方を変えると、家庭部門や業務部門も減らす努力をしないとイケないといえるかな。グラフ(ウ)を見てごらんよ。2013年度の運輸部門の二酸化炭素排出量は1990年度に比べて32.8%増えたといえるよね。⑥同じようにいくつかの部門について表にして比べてみたんだ。

あおい：増えている部門や減っている部門が分かりやすいね。

ゆうま：それにグラフ(エ)で家庭部門の二酸化炭素の排出量の変化を見ると、2005年度は1,406千tだったけど、2013年度には(オ)千tになっているよね。

あおい：家庭のエネルギー消費量が2005年度は17,190 T・Jで2013年

度は(カ) T・Jとなっていることも同じグラフから分かるね。ゆうまさんのいったことと合わせると不思議だね。

ゆうま：本当だね。なぜだろう。⑥今、二人で気づいたことを次に調べる課題にしようよ。「家庭部門では、(キ)のは、なぜだろう」という課題はどうか。

【問題3】 (ア)～(カ)に入る言葉や記号、数を書きなさい。

【問題4】 下線部⑦について、次のゆうまさんの記入例のように、表を完成させなさい。

【部門別の二酸化炭素排出量の変化】		ゆうまさんの記入例
	1990年度から2013年にかけての変化	
運輸部門	1990年度に比べ2013年度は、32.8%増えている。	←
産業部門	1990年度に比べ2013年度は、()。	
家庭部門	1990年度に比べ2013年度は、()。	
業務部門	1990年度に比べ2013年度は、()。	

【問題5】 下線部⑧について、(キ)に当てはまる文を35字以内で書き、この課題を完成させなさい。ただし、一文で書くこと。

まず解いてみよう!

解説・解答を見ないで、まず自分で分析してみよう!

解説

【問題1】 グラフ資料を読み取る場合、そのグラフのタイトルをしっかり押さえることが大切。Aでは、国別の排出量の割合が表されているので、それ以外の事実を読み取ることはできません。

【問題2】 条件を落とさないように。数値は大きなものに着目。排出量の合計から温暖化のさらなる原因が見えてきますね。

【問題3】 各グラフが何についてのグラフなのかを正確に押さえ、会話文から、求められる言葉や数値を正確にとらえていこう。

【問題4】 各部門のグラフを間違えず注意深く見ていこう。

【問題5】 「今、二人で気づいたことを」を課題にするので、グラフDで、排出量は増加しているが、エネルギー消費量は減少しているという変化に着目します。ここに疑問の元が生まれますね。

解答例

【問題1】 ② 【問題2】 【グラフB】から、1850年から2005年までの二酸化炭素排出量の合計で見ると、「工業化を早くから進めた国々」の排出量が全体の80%をこえていることが分かる。二酸化炭素は地球温暖化の原因の一つといわれ、実は「工業化を早くから進めた国々」こそ、現在の地球温暖化の原因をつくってきている。

【問題3】 A C イ 産業 ウ E エ D
オ 2,004 カ 14,895 【問題4】 (産業部門) 7.2%減っている (家庭部門) 53.4%増えている (業務部門) 81.2%増えている

【問題5】 エネルギー消費量が減ったのに、二酸化炭素排出量が増えている